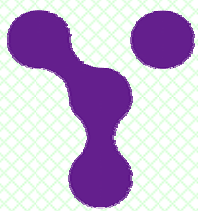




環境報告書  
2007

*Environmental Management Report*



国立大学法人

山梨大学

## トップメッセージ



山梨大学は以前より環境問題に深い関心を持ち、環境改善のための研究が活発に行われて来ています。1974年には全国に先駆けて、工学部に環境整備工学科（現土木環境工学科）を設置しました。

その後、2001年には循環システム工学科、2003年にはクリーンエネルギー研究センターを設置し、現在でも環境に関する多くの研究が行われています。

環境教育に関しましても、1991年には全学出席方式による環境科目を開設し、その後も専門科目も含めた環境教育の充実を行い、学生が環境問題に関心を持ち、積極的に環境改善に取り組むよう指導して来ました。

そして、本学における環境改善に関する教育研究活動の基本理念を明確に示し、活動の更なる進展を期するために、2002年に学長名で「環境宣言」を発表しました。

この宣言において、山梨大学は未来世代にわたって、人類がよりよく生きるための地球環境の向上を目指し、教育及び学術研究の面からの活動を実施するとしています。

この「環境宣言」で示された基本理念に基づいて積極的に環境問題に取り組むために、環境マネジメントシステムを構築し、山梨大学環境マネジメントマニュアルを制定して、大学全体として環境問題に取り組む体制を整えました。

その体制の下で、学生、教職員が一体となって活動し、2003年に甲府キャンパス、2004年附属病院を除く医学部キャンパス、附属小学校及び養護学校、2006年に附属中学校及び幼稚園で、地球環境保護のために制定された国際規格『ISO14001』の審査登録を果しました。

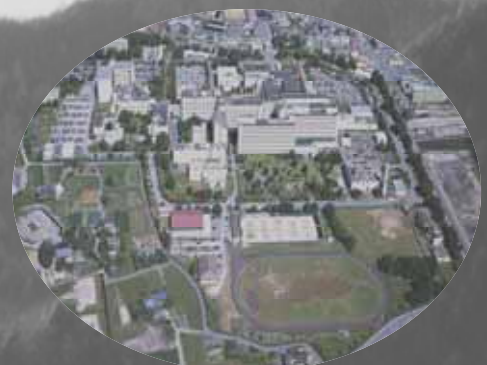
以上述べましたように、山梨大学は、学生、教職員が一致団結して環境活動を積極的に行って来ておりまして、今後も未来世代に素晴らしい環境を継承するための活動を継続していきます。

2007年7月

国立大学法人山梨大学  
学長 貫井 英明



甲府キャンパス



医学部キャンパス

# 『癒しの空間』創造

より良い環境に向けて



入院患者さん観賞会



平成18年12月5日 ホタルの幼虫放流

医学部キャンパス

医学部福利厚生棟脇の池に、昨年12月に放流したホタルの幼虫が成虫となり、光を放っていることが確認され、5月10日、ホタルの鑑賞会が開かれた。約1ヶ月間の《光の舞》を観ることができた。今後さらに屋外環境における環境整備を図る。



## 環境配慮の方針

### 山梨大学 環境宣言

#### (基本理念)

人類が21世紀をより良く生きるためには、人間の社会的行動によって起こる地球環境への負荷を軽減し、物質循環を基本とするゼロエミッションの社会を構築する必要があります。このような持続性のある循環型社会を構築し、維持していくことは私たちの責務であり、これらに向けた取り組みは必要不可欠であります。

本学では、よりよい環境を目指して、教育及び学術研究の面から地球環境の向上に貢献するための環境活動を実施するものであります。

#### (基本方針)

本学は、基本理念を実現するために、職員及び学生など、本学に関わる全ての人々の協力のもとに、それぞれの立場で「個人として」、「組織として」、自発的・積極的に環境活動に取り組みます。

- (1) 地球環境の保全・改善活動を推進するために、教育及び学術研究活動を通じて、循環型社会を担う21世紀に必要な人材を育成するとともに、教育啓発活動を積極的に展開します。
- (2) 環境目的及び目標を設定し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
- (3) 循環型社会の実現を目指し、廃棄物の減量化、再利用、リサイクルなどにより、省資源・省エネルギーに取り組み、環境維持・改善と汚染予防につとめます。
- (4) 適用される環境関連の法規、規制、協定、自主基準などを遵守します。
- (5) 山梨県における環境活動に積極的に参画し、地域環境の保全・改善活動を支援します。
- (6) この環境宣言は文書化し、大学ホームページなどを通じて、職員・学生など、本学に関わる全ての人々に周知するとともに、地域社会へも公開し、また、環境活動への取り組みを公表します。

山梨大学長

# 目 次

トップメッセージ  
山梨大学環境宣言

## 概要

山梨大学憲章	1
大学組織図	2
大学構成員数	3～4

## 環境マネジメントに関する状況

環境組織	5
環境管理体制	6

## 事業活動における環境配慮の方針・目標

平成18年度環境活動計画	7～11
--------------	------

## 環境負荷及びその低減に向けた取組の状況

平成18年度環境活動報告	12～20
環境データ	21～23
環境保護対策	24～25

## 社会的取組の状況

地域貢献	26～27
------	-------

## 外部審査評価

環境マネジメントシステム登録情報	29
------------------	----

## 概要

# 「地域の中核、世界の人材」

## 山梨大学憲章

平成17年10月1日 制定

山梨大学は、個人の尊厳を重んじ、真理の追究と学問の自由を大切に、多様な文化や価値観を積極的に受け入れます。

また、社会の要求に応えつつ、広い知識と深い専門性を追求し、地域の中核となり、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人材を養成する場となることを表明します。

この憲章に基づいて、山梨大学の役員・職員・学生は、志を同じくするすべての人々と協力し、以下の目標の達成を目指します。

### 【未来世代にも配慮した教育研究】

山梨大学は、現代世代だけでなく、未来世代の福祉と環境にも配慮した視点に基づいて、教育研究を行います。

### 【諸学の融合の推進】

山梨大学は、専門領域を超えて協力し合い、諸学の柔軟な融合による新しい学問分野を創設し、さまざまな課題の解決に努めます。

### 【世界的研究拠点の形成】

山梨大学は、国際的視野を持って、問題の発見と解決に取り組み、世界の人材が集う研究拠点を構築し、学術及び科学技術の発展に貢献します。

### 【国際社会で活躍する人材の養成】

山梨大学は、市民としての倫理性と自律性を身に付け、専門性をもって、国際社会で活躍できる人材の養成に努めます。

### 【地域から世界へ】

山梨大学は、地域社会が抱える課題を取り上げ、その解決に地域と協同してあたり、得られた成果を世界に向けて発信します。

### 【現実社会への還元】

山梨大学は、教育研究の成果が社会に応用され、役立つよう、社会に積極的に還元することに努めます。

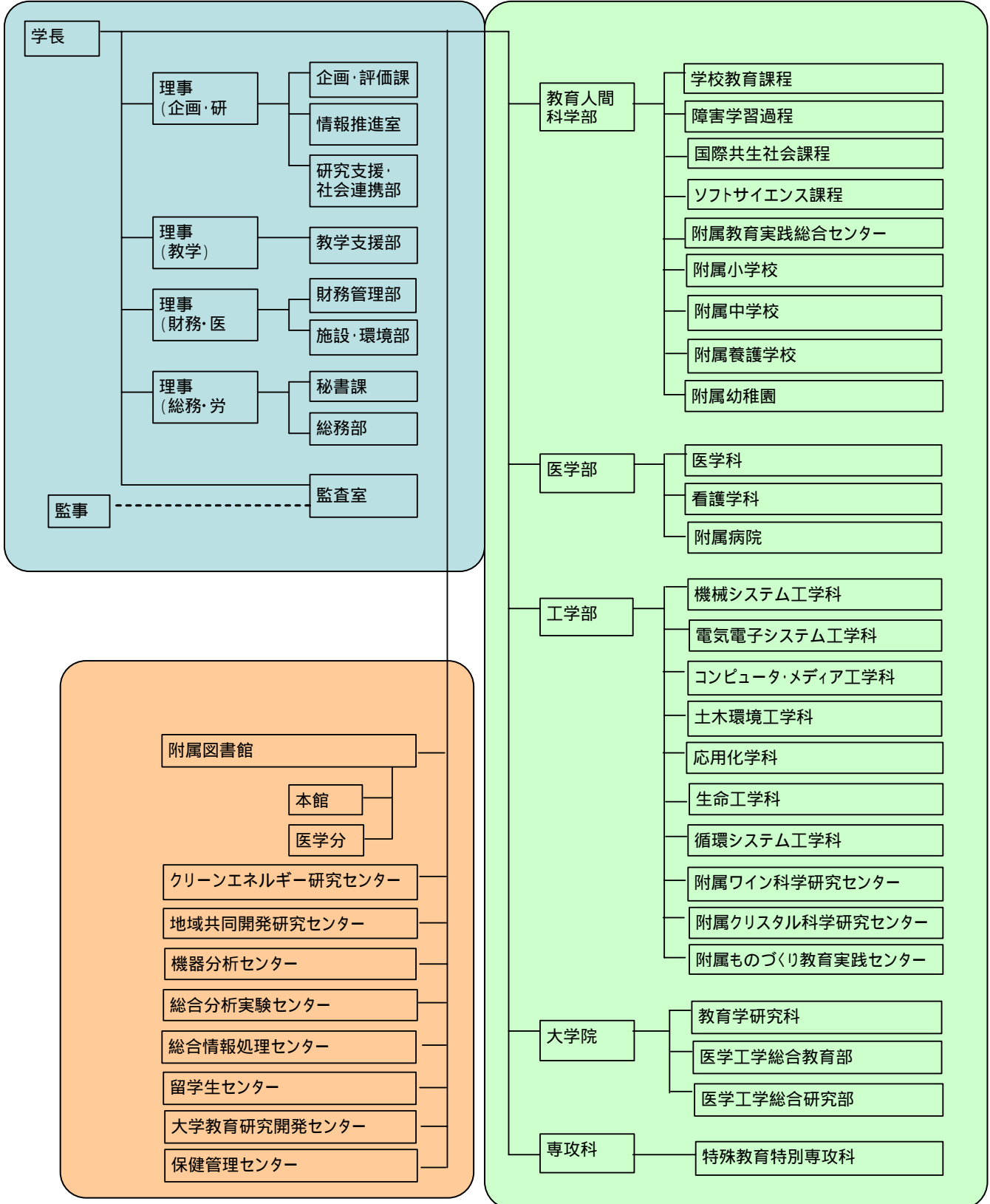
### 【絶えざる改革】

山梨大学は、自ら点検・評価を行うとともに、社会からの声を広く求め、絶えざる改革を推進します。



# 概要

## 大学組織図



## . 概要

### 大学構成員数

#### 職員数 UNIVERSITY PERSONNEL

平成19年5月1日現在 As of May.1,2007

区分 Classification	学長 President	理事 Executive Director	監事 ※1 Auditor	教授 Professor s	准教授 Associate Professors	講師 Assistant Professors	助教 Research Associates	教諭 Teachers	義塾教諭 School Nurses	栄養教諭 School Dietitians	一般職員 General Official	助手 Research Assistants	医療職員 Medical Official	計 Total
役員 Officer	1	4	2 (1)											7 (1)
事務部門 Administrative Section											315			315
教育人間科学部(附属教育実践総合センターを含む。) Faculty of Education and Human Sciences				58	44	5	1					4		112
教育人間科学部附属学校・園 Attached Schools and Kindergarten								76	4	2			1	83
医学部 Faculty of Medicine												5		5
医学部附属病院 University Hospital				7	7	32	58				25		381	510
工学部(附属研究センターを含む。) Faculty of Engineering					1		2					2		5
大学院医学工学総合研究部 Department of Research Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Engineering				112	91	10	125					4		342
クリーンエネルギー研究センター Clean Energy Research Center				2	2									4
地域共同開発研究センター Cooperative Research and Development Center					1									1
機器分析センター Center for Instrumental Analysis					1						2			3
総合分析実験センター Center for Life Science Research					4		2							6
総合情報処理センター Integration Information Processing Center					1						2			3
留学生センター International Student Center				2	1	2								5
大学教育研究開発センター ※2 Research and Development Center for Higher Education				1	1	2								4
保健管理センター Health Care Center					2	1							3	6
計 Total	1	4	2 (1)	182	156	52	188	76	4	2	344	15	385	1,411 (1)

※1 ( )は非常勤の数で内数。( )indicate the number of the part-time personnel.

※2 大学教育研究開発センターにおける教授以外は外国人教員を示す。The number except for a professor indicates the language instructors.



## 概要

学生の定員及び現員

STUDENTS

平成19年5月1日現在 As of May.1, 2007

区分 Classification	入学定員 Capacity	現員 Present Enrollment				
		男 Male	女 Female	計 Total		
学部 Faculties	教育人間科学部 Faculty of Education and Human Sciences	学校教育課程 Division of School Education	100	167 (3)	275 (4)	442 (7)
	生涯学習課程 Division of Lifelong Learning	20	38	50 (1)	88 (1)	
	国際共生社会課程 Division of Social and Cultural Studies	40	55	116	171 (1)	
	ソフトサイエンス課程 Division of Interdisciplinary Sciences	40	110 (1)	55 (1)	165 (2)	
	計 Total	200	370 (4)	496 (6)	866 (10)	
	医学部 Faculty of Medicine	医学科 School of Medicine	100	471 (7)	147 (1)	618 (8)
	看護学科 School of Nursing	60 [10]	27	244	271 (1)	
	計 Total	160 [10]	498 (7)	391 (1)	889 (8)	
	工学部 Faculty of Engineering	機械システム工学科 Department of Mechanical Systems Engineering	90 [10]	450 (2)	10	460 (2)
	電気電子システム工学科 Department of Electrical and Electronic Engineering	70 [5]	329 (2)	11	340 (2)	
	コンピュータ・メディア工学科 Department of Computer Science and Media Engineering	75 [5]	333 (6)	41 (1)	374 (7)	
	土木環境工学科 Department of Civil and Environmental Engineering	75	294	34	328 (1)	
	物質・生命工学科 (改組前) Department of Applied Chemistry and Biotechnology (Prior to Reform)		7	3 (1)	10 (1)	
	応用化学科 Department of Applied Chemistry	50	189	36	225	
生命工学科 Department of Biotechnology	35	88	63	151 (1)		
循環システム工学科 Department of Ecosocial System Engineering	45	115	64 (1)	179 (1)		
クリーンエネルギー特別教育プログラム Special Educational Program of Clean Energy	[5]	6		6		
ワイン科学特別教育プログラム Special Educational Program of Enology and Viticulture	[5]	3	1	4		
計 Total	440 [20]	1,814 (10)	263 (3)	2,077 (13)		
学部合計 Total of Faculties	800 [30]	2,682 (21)	1,150 (10)	3,832 (31)		
大学院・専攻科及びその他 Graduate Schools, One-Year Advanced Program and etc.	大学院教育学研究科(修士課程) Graduate School of Education Master's Course	学校教育専攻 School Education	6	5	7	12
	障害児教育専攻 Education for Children with Disabilities	3	3	4	7	
	教科教育専攻 Science of Teaching and Learning	33	30 (1)	26	56 (1)	
	計 Total	42	38 (1)	37	75 (1)	
	大学院医学工学総合教育部(修士課程) Department of Education Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Engineering Master's Course	医科学専攻 Medical Science	20	11	15 (2)	26 (2)
	看護学専攻 Nursing Science	16	2	31 (1)	33 (1)	
	機械システム工学専攻 Mechanical Systems Engineering	36	80	2	82	
	電気電子システム工学専攻 Electrical and Electronic Engineering	27	73 (1)		73 (1)	
	コンピュータ・メディア工学専攻 Computer Science and Media Engineering	30	52	14	66	
	土木環境工学専攻 Civil and Environmental Engineering	27	43 (2)	8	51 (2)	
	物質・生命工学専攻 Applied Chemistry and Biotechnology	30	59	25	84	
	自然機能開発専攻 Materials and Environment Technology	37	46 (1)	9 (1)	55 (2)	
	持続社会形成専攻 Sustainable Society Studies	30 <6>	22 <1>(1)	9 (1)	31 <1>(2)	
	計 Total	253 <6>	388 <1>(5)	113 (5)	501 <1>(10)	
	大学院医学工学総合教育部(4年博士課程) Department of Education Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Engineering Doctor's Course(4 Year's)	先進医療科学専攻 Advanced Medical Science	21	54 (4)	18 (1)	72 (5)
	生体制御学専攻 Medical Science of Bioregulation	12	6	1	7	
	計 Total	33	60 (4)	19 (1)	79 (5)	
	大学院医学工学総合教育部(3年博士課程) Department of Education Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Engineering Doctor's Course(3 Year's)	ヒューマンヘルスケア学専攻 Nursing and Health Science	4	1	15	16
	人間環境医学専攻 Human Environment Medical Engineering	18	37 (3)	34 (4)	71 (7)	
	機能材料システム工学専攻 Engineering for Functional Material Systems	13	29 (2)	6 (2)	35 (4)	
	情報機能システム工学専攻 Information and Mechanical System Engineering	12	12 (5)	1	13 (5)	
	環境社会創生工学専攻 Natural, Biotic and Environment Engineering	13	22 (2)	9 (2)	31 (4)	
計 Total	60	101 (12)	65 (8)	166 (20)		
大学院医学系研究科博士課程 (旧山梨医科大学) Graduate School of Medicine Doctor's Course	形態学専攻 Morphology		1		1	
生理学専攻 Physiology		3		3		
生化学専攻 Biochemistry		1		1		
生態学専攻 Human Ecology		1 (1)		1 (1)		
計 Total		6 (1)	0	6 (1)		
大学院工学研究科博士後期課程 (旧山梨大学) Graduate School of Engineering Doctoral Course	物質工学専攻 Material Science and Technology		5 (1)	1 (1)	6 (2)	
社会・情報システム工学専攻 Social and Information System Engineering		2		2		
計 Total		7 (1)	1 (1)	8 (2)		
大学院合計 Total of Graduate Schools		388 <6>	600 <1>(24)	235 (15)	835 <1>(39)	
特別支援教育特別専攻科 Special Advanced Program in Special Support Education	障害児教育専攻 Education for Children with Disabilities	30	3	8	11	
計 Total		30	3	8	11	
大学院・専攻科合計 Total of Graduate Schools and Department of Education and One-Year Advanced Program		418 <6>	603 <1>(24)	243 (15)	846 <1>(39)	
その他 etc.	研究生 Research Students		25	23	48	
	科目等履修生 Partial Students		16	13	29	
	特別聴講生 Occasional Students		6	12	18	
	計 Total		47	48	95	
総合計 Grand Total		1,218 [30]<6>	3,332 <1>(45)	1,441 (25)	4,773 <1>(70)	

1 [ ]内は外数で3年次編入学を示し、( )内は休学者を、&lt; &gt;内は修士課程短期特別コースの学生を内数で示す。

[ ] indicate the Fixed numbers of 3rd-year transfer students. ( ) indicate the number of the students who are withdrawing from school temporarily.

&lt; &gt; indicate the number of the students of Short-term Special Master's Course.

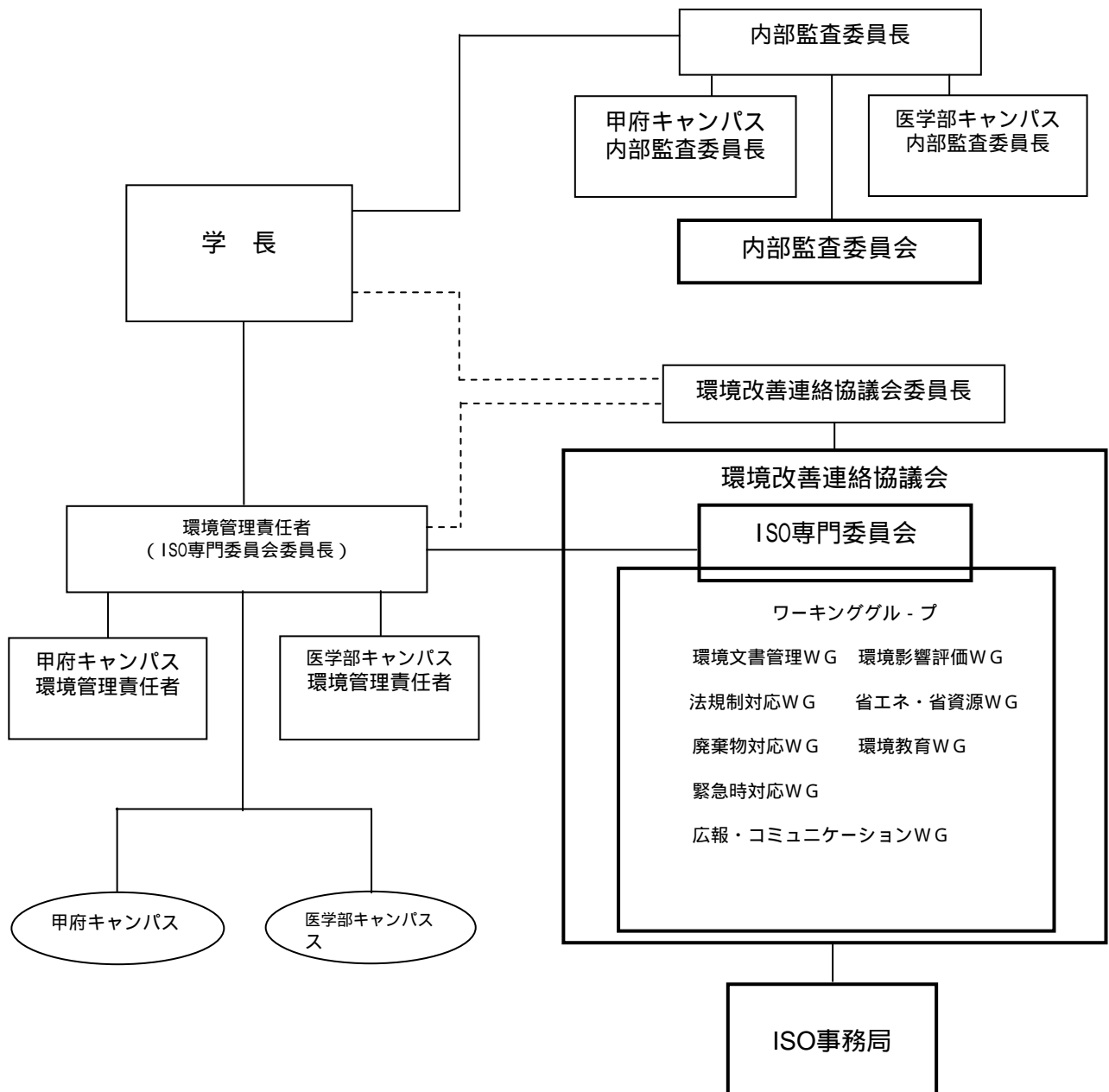
2 特別教育プログラムの[]内の数字は内数で、機械システム工学科、コンピュータ・メディア工学科及び生命工学科の入学定員から各2人、電気電子システム工学科、土木環境工学科、応用化学科及び循環システム工学科の入学定員から各1人を充当している。

[] indicate the number of Capacity of Faculty of Engineering.

## 環境マネジメントに関する状況

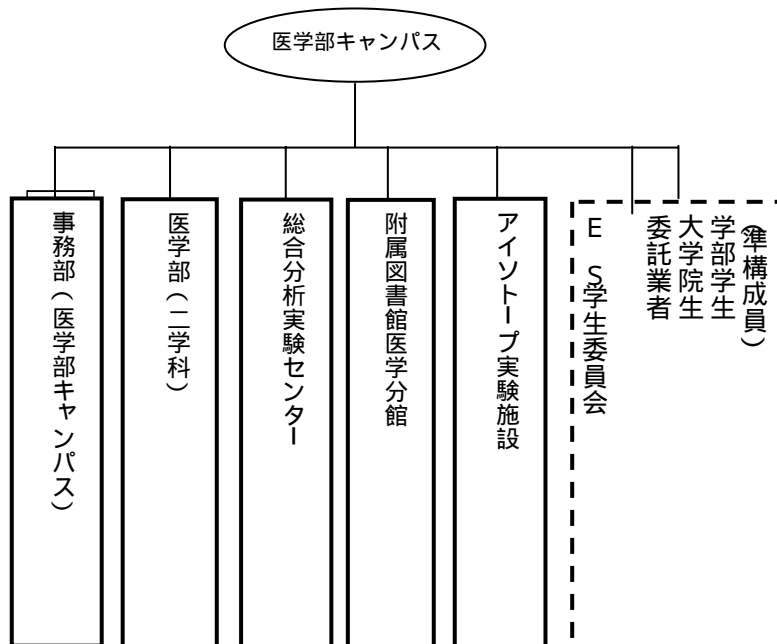
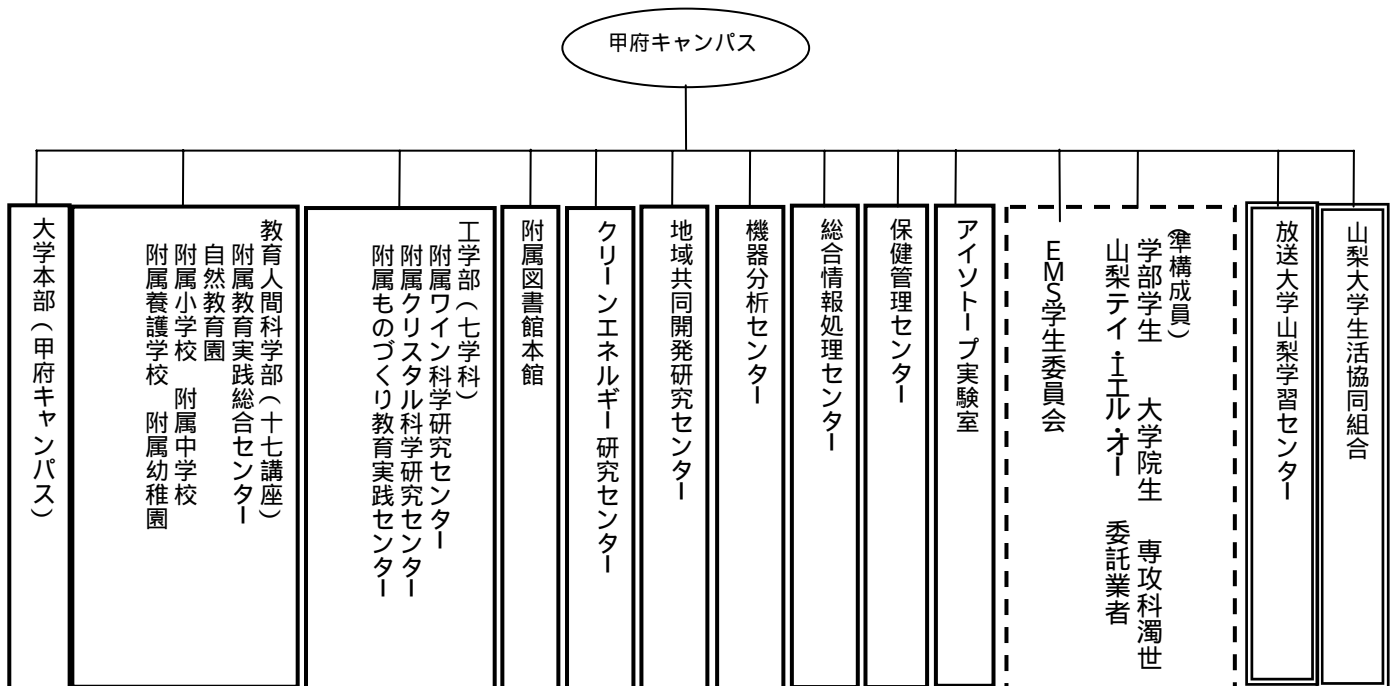
### 環境組織

本学における環境マネジメント体制（平成19年4月現在）



## 環境マネジメントに関する状況

### 環境管理体制



## ・事業活動における環境配慮の方針・目標

### 平成18年度 環境改善活動計画

#### 環境文書管理WG

- 1 環境マネジメントマニュアルの改訂
  - ・必要に応じ改訂する（必要時の判断は、環境管理責任者による）。
  - ・改定の有無とは別に、1年に1度以上見直す。
- 2 環境マネジメントプログラムの作成と改訂
  - ・環境管理責任者と協力してその年度のものを作成する。
  - ・1年に1度以上見直し、必要に応じて改訂する。
- 3 ISO14001関連文書の管理
  - ・全学に適用される文書の名称、附番の管理の継続。
  - ・未対応書類について、電子文書による閲覧配布の検討。

#### 環境影響評価WG

- 1 環境側面抽出調査の実施
  - ・環境影響評価WG、法規制対応WG、環境教育WGの各リーダーの連名で、部門長に対して、環境側面抽出調査をメールで依頼し、その結果を集計する。
  - ・昨年度の実績をワード文書で添付し、変更箇所を記述する。
  - ・依頼文書、調査用紙などをすべてメール等で行い、ペーパーレス化に配慮する。
  - ・「環境側面の抽出調査項目と担当部署一覧表」に登録する。
  - ・同様な文書を医学部キャンパス環境管理責任者に送付し、医学部キャンパスでの環境側面抽出調査を行う。
- 2 環境影響評価登録表などの作成
  - ・関連WGに環境側面抽出シートの作成を依頼し、その結果をもとに「環境影響評価登録表」「環境影響評価シート」について平成18年度版（平成17年度実績）を早期に作成する。
- 3 その他
  - ・環境影響評価規定の見直しおよび山梨大学の他の委員会（毒物及び劇物等管理委員会、公害対策委員会など）の規定との関連を検討する。

## 事業活動における環境配慮の方針・目標

### 平成18年度 環境改善活動計画

#### 法規制対応WG

環境関連法規の制定について常に注意を払い、制定後は直ちに対応を検討しマニュアルの改訂を行う  
また、下記法律への対応について調査等を実施し、その結果に基づき必要な措置を講ずる。

- 1 高圧ガスの実態調査と保有量削減対策
  - ・高圧ガス保有量の基準未満レベルへの削減と維持
- 2 禁煙・分煙の徹底
  - ・受動喫煙の防止として、人通りの多い通路等を避け喫煙場所を設置
  - ・歩行喫煙禁止の徹底や掲示板の設置
- 3 化学薬品の管理・取り扱い
  - ・化学薬品管理システムを活用し、使用者を特定した上で、該当者は特別健康診断を受診させる。
- 4 労働安全衛生法関連規則への対応
  - ・アスベスト等の保有量の調査・使用実態の掌握を行う。

#### 省エネ・省資源WG

- 1 環境データ（電力使用量，水道水使用量，コピー紙等用紙購入量，都市ガス使用量）の定期的集計と不適合事項への対応
- 2 平成18年度活動目標（環境マネジメントプログラムの該当箇所を参照のこと）

##### 電力使用量の削減

甲府キャンパス：前年度使用量（8,165,000kWh）を下回る．

医学部キャンパス：前年度使用量（6,290,000kWh）を下回る．

##### 水道水使用量の削減

甲府キャンパス：前年度使用量（86,931m<sup>3</sup>）を下回る．

医学部キャンパス：前年度使用量（25,201 m<sup>3</sup>）を下回る．

##### コピー紙等用紙購入量の削減

甲府キャンパス：前年度使用量（8,456,000枚）を下回る．

医学部キャンパス：前年度使用量（5,141,000枚）を下回る．

##### 都市ガス使用量の削減

甲府キャンパス：前年度使用量（255,000m<sup>3</sup>）を下回る．

医学部キャンパス：監視・記録のみを行う．

注1：電力の使用量は，甲府キャンパス，医学部キャンパス前年度使用量（下三桁切捨て）

注2：平成18年4月より、医学部キャンパスはボイラ及び吸収式冷凍機の燃料を重油から都市ガスに切り替えたことにより、都市ガス使用量の大幅な増加が見込まれるので、使用量の目標は設定せず、監視・記録のみを行うこととした．

注3：前年度使用量は本WGが把握している数値



## 事業活動における環境配慮の方針・目標

### 平成18年度 環境改善活動計画

#### 廃棄物対応WG

- 1 環境目的  
可燃ごみの削減
- 2 環境目標  
甲府キャンパスの可燃ごみの年間排出量を過去5年間の平均値 148.000KG を下回る排出量にする。  
(山梨大学生協同組合を除く)  
医学部キャンパスの可燃ごみの年間排出量を過去4年間の平均値 414.000KG を下回る排出量にする  
(昨年実績はISOのHPに掲載)
- 3 活動項目
  - a) 可燃ごみの排出量を2006年度の目標値以下になるように徹底する。
  - b) 廃棄物の分別排出を徹底する。
  - c) ごみ集積所などに不法投棄がないように徹底する。
  - d) 教育人間科学部、医学部、工学部の会計係から廃棄物処理データ及び廃棄物回収実施状況のデータを提出していただく。
  - e) 必要があれば「廃棄物管理運用手順書」(YE-2-A-4462)の書き換えを行う。

#### 環境教育WG

- 1 関連WG及び部門と協議の上、次の内容に係わる環境教育・訓練を実施する。
  - (1) 環境マネジメントシステム教育
  - (2) 著しい環境側面に関する一般的教育・訓練
  - (3) 著しい環境側面に関する特別教育・訓練
  - (4) 環境法令セミナー
  - (5) 環境教育/環境研究/地域貢献の推進
- 2 環境教育科目の開講  
「環境マネジメント概論」(集中講義, 1単位)  
開講日: 8月11日(木)及び8月12日(金)の2日間  
教室: K124教室  
講師: 学外者1名交渉済み  
受講生: 受講を希望する新入生総計60名程(受講生は各部門における環境改善活動に協力参加することが期待される)
- 3 環境教育科目の開講の検討  
「環境マネジメント実習」開講の検討
- 4 美化運動の推進  
環境教育の一環として、「学内一斉清掃」への積極的な参加を構成員・準構成員に促す。

## ・事業活動における環境配慮の方針・目標

### 平成18年度 環境改善活動計画

#### 緊急時対応WG

- 1 環境マネジメントマニュアル 4.4.7 緊急事態への準備及び対応（以下「マニュアル」という）に定められている項目を確実に実行できる手順と記録を確立するために活動を行う。
- 2 緊急事態への準備及び対応に関わる教育・訓練及びテストの実施について、各部門に対し周知徹底を図る。

#### 広報・コミュニケーション WG

1. ISO web ページについて  
新年度版への更新  
「年」、環境管理責任者名等の書き換え、  
「問い合わせ先」メールアドレス iso14001@yamanashi.ac.jp の管理  
環境管理責任者 + 事務局 + WG リーダ に設定する  
アクセス数の把握  
analog によるアクセスログの管理を行なう  
コンテンツ登録の自動化  
「Information」部分の登録を事務局で行なえるようにする  
学生 EMS 委員会ページへのテコ入れ  
活動内容未定
2. 環境情報処理手順書  
「(環境情報連絡/)環境対策依頼書」(YE-4-A-4431)、「外部環境情報記録」(YE-4-A-4432) の内容の検討を行なう
3. 関連文書の電子化と保管  
教職員向けに関連文書を「大学運営データベース」に登録する  
(学生向けは引き続き web ページで公開する)

## ・事業活動における環境配慮の方針・目標

### 環境活動ポスタ -

#### 心がけてほしい身近な環境活動

21世紀（環境の世紀、環境革命の時代）の社会秩序を維持するためには、一人ひとりが環境にかかわる基本行動を意識しなければなりません。国際社会が環境問題に取り組む原動力は、一人ひとりの意識でありその行動力です。全ての人がこの環境問題に適切な役割を果たし、PDCAサイクルのスパイラルアップに取り組むことが求められます。

さて、山梨大学においてお世話環境員に思いを凝らし（Think globally）、波のような極めて意識的な日常活動で身近に参加する環境活動（Act locally）に、積極的に取り組みましょう。

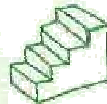
山梨大学環境改善連絡協議会

#### ①照明はこまめに消す



使っていない教室の照明を消しましょう。廊下やトイレなどの照明は必要の無いときは消しましょう。また、野外からの日光で十分明るければ照明を消しましょう。

#### ⑦エレベータの使用を控える



近くの階は階段を利用しましょう。また、昼休みなどは、エレベータの一絡み止しを止めましょう。エレベータも過度に電力を消費します。

#### ②節水に努める



蛇口は適度に調整し、水の過剰に気をつけましょう。また、手洗いや洗顔では、必要な水量だけ流すようにしましょう。

#### ⑧徒歩や自転車を利用する



短距離の移動には徒歩や自転車を利用しましょう。また、移動中の利用は必ず安全に気を配りましょう。

#### ③電気製品の不必要なつけっ放しは止める



長時間電源を入れた状態でOA機器を放置しないようにしましょう。また、電気製品などを長時間使用しないときは、コンセントを抜くようにしましょう。

#### ⑨省エネルギー機器などのグリーン購入に心がける



電気製品の購入では、維持費なども考え、エネルギー消費効率の高い機器を選択しましょう。また、パソコンなどのOA機器を購入する際は、待機時消費電力値に注目し適切な機器を選択しましょう。その他、グリーン購入法に適合した製品の購入をお願いします。

#### ④紙の無駄な使用を控える



紙の無駄使いを控きましょう。コピーは必要枚数だけ取るようにしましょう。また、再生紙を使ったり、不必要になった紙の裏面を再利用することなどを心がけましょう。

#### ⑩廃棄物やごみの分別処理を心がける



ごみをできるだけ出し出さない生活習慣を心がけましょう。また、廃棄物やごみは分別して処理し、再資源化に努めましょう。

#### ⑤暖房室温は低めに設定する



断熱中の室温を低め（20℃）に設定し、こまめな換気頻度に努めましょう。

#### ⑪大学内での環境マナーを守る



経路マナーや処理マナーを守りましょう。学内はすべて禁煙場所です。定められた場所が喫煙し、喫煙のポイ捨ては絶対に止めましょう。また、飲み残ったガムは包んで処理しましょう。

#### ⑥エアコンの過度な使用を控える



エアコンのつけっ放しや過度な冷房（28℃を下回る）は控えましょう。エアコンは多量の電力を消費する電気製品です。

#### ⑫環境保全のための活動には、大学の内外において積極的に参加する



環境保全活動に積極的に関与し、できる限りの機会を捉えて積極的に参加しましょう。教職員・学生は互いに協力して、「山梨大学環境宣言」を推進しましょう。

## 環境負荷及びその低減に向けた取組の状況

### 平成18年度 環境改善活動報告

#### 環境文書管理WG

- 1 環境マネジメントマニュアルの改訂
  - ・ISO14001の規格改正に伴う環境マネジメントマニュアル第9版の見直しを行い、2006年7月11日付けで環境マネジメントマニュアル第10版に改訂した。
- 2 環境マネジメントプログラムの作成と改訂
  - ・環境マネジメントプログラム第7版の見直しを行い、環境管理責任者と協力して2006年8月21日付けで環境マネジメントプログラム第8版に改訂した。
- 3 ISO14001関連文書の管理
  - ・全学に適用される文書の名称、附番の管理を継続して行った。

#### 環境影響評価WG

環境側面抽出調査及び環境影響評価登録表などの作成については、計画の通り行った。

環境側面抽出調査をメールで依頼し、ペーパーレス化と作業の迅速化を図った。環境側面抽出シートの作成についてもメールで各部門に依頼し、その結果から環境影響評価規定に沿って著しい環境側面の抽出を行い、環境影響評価シートおよび環境影響評価登録表（平成17年度の実態）を作成した。環境影響評価シート（有害な影響、定常時）においては、甲府キャンパスでは昨年度（16年度の実態）と比較して、電力、ガス使用の評価ポイントが増加し、同様に玉穂キャンパスではガス使用のポイントが増加した。これは甲府キャンパスでは総合研究棟の新築、玉穂キャンパスでは空調設備のガスへの切り替えが行われたためと考えられる。環境影響評価シート（有益な影響）においては、昨年度に比べ、環境研究の増加があったが、部門における環境教育においては活動の低下がみられた。

## 環境負荷及びその低減に向けた取組の状況

### 平成18年度 環境改善活動報告

#### 法規制対応WG

##### 1 高圧ガスの実態調査と保有量削減対策

保有量を調査し、「高圧ガス保有量調査記録」(YE-4-A-4325)に記録した。なお、ガスボンベの固定及び移動通路の確保など、留意事項の実態調査が必要であるが、ISO(環境)以前に、消防法等による規制が実現されているはずである。本WGの活動範囲としては高圧ガス保有量の掌握、消防法等の内容の調査ならびに運用規則との対応にとどめる。

##### 2 禁煙・分煙の徹底

昨年度と比較し、一定の効果は認められる。しかしながら、少数であるが学生への指導が必要であると認められる。今後さらに全職員による指導を徹底する。

なお、平成19年2月に大学生協同組合の協力を得て、自動販売機を撤去し、構内での煙草の販売を行わないこととした。

##### 3 化学薬品の管理・取り扱い

化学薬品管理システムの利用は徹底されている。また、特別健康診断も保健管理センターで実施されている。なお、ISO(環境)以前に、PRTR 法等による規制を受ける注意物質の保管方法の改善などについても規制されているはずであるが、法規制WGの活動範囲としては薬品等保有量の掌握ならびにPRTR 法の内容の調査、運用規則との照合にとどめるのが適当である。

##### 4 労働安全衛生法関連規則との関連

環境保全関連の法規制とは別に、労働安全衛生法に絡んだ職場環境保全の問題がある。本学に設置された労働安全衛生本部の所掌内容とも絡んで、今後さらに検討を進める。



## 環境負荷及びその低減に向けた取組の状況

### 平成18年度 環境改善活動報告

#### 省エネ・省資源WG

- 1 環境データ（電力使用量，水道水使用量，コピー紙等用紙購入量，都市ガス使用量）の定期的集計と不適合事項への対応

環境データの集計状況（18年度）

		甲府キャンパス		玉穂キャンパス	
		使用量/ 購入量 <sup>*1</sup>	前年 同期比	使用量/ 購入量 <sup>*1</sup>	前年 同期比
電力 [kWh]	年間目標値	8,165,000		6,290,000	
	実績値 <sup>*2</sup>	8,061,107	0.98	6,123,466	0.97
水道水 [m <sup>3</sup> ]	年間目標値	86,931		25,201	
	実績値 <sup>*2</sup>	86,775	0.99	20,803	0.83
コピー紙等用紙 [枚]	年間目標値	8,456,000		5,141,000	
	実績値 <sup>*2</sup>	7,155,250	0.85	4,071,283	0.79
都市ガス [m <sup>3</sup> ]	年間目標値	255,000		*3	
	実績値 <sup>*2</sup>	224,853	0.88	398,863	

\*1：コピー紙等用紙は購入量、それ以外は使用量

\*2：甲府キャンパスの電力、コピー用紙、都市ガスは3月分まで、

\*3：燃料切り替えのため、監視・記録のみを行った。

環境データに関する不適合事項（前年比で1.1倍を超過）への対応件数

（2007.3.1現在、甲府キャンパス分）

- ・電力使用量 8件
- ・水道水使用量 2件
- ・コピー紙等用紙使用量 0件
- ・都市ガス使用量 4件

計：14件

- 2 環境データに関する削減目標値の提示（「環境マネジメントプログラム」(YE-2-A-4341)に記載）

## 環境負荷及びその低減に向けた取組の状況

### 平成18年度 環境改善活動報告

#### 廃棄物対応WG

##### 1 環境目標の設定

下記目標値を定めて「環境マネジメントプログラム」(YE-2-A-4341)に記載した。

- ・ 甲府キャンパスの可燃ゴミの年間排出量を過去5年間の平均値148,000kgを下回る排出量にする。(ただし山梨大学生生活協同組合を除く)

平成18年度甲府キャンパス可燃ゴミ排出量 146,840kg

- ・ 玉穂キャンパスの可燃ごみの年間排出量を過去3年間の平均値414,000kgを下回る排出量にする。

平成18年度医学部キャンパス可燃ゴミ排出量 380,020kg

##### 2 活動報告

- 1) 可燃ごみの排出量を2006年度の目標値以下になるように徹底した。
- 2) 廃棄物の分別排出を徹底した。
- 3) ごみ集積所などに不法投棄がないように徹底した。
- 4) 会計課及び各学部の担当者から廃棄物処理及び廃棄物回収実施状況のデータ収集し、ISOホームページで公表した。

## 環境負荷及びその低減に向けた取組の状況

### 平成18年度 環境改善活動報告

#### 環境教育WG

##### 1 環境教育・訓練

##### (1) 環境マネジメントシステム教育

###### 1) 新入生に対する環境教育とISO教育

新入生に対して、「ISO14001 準拠 山梨大学環境マネジメントシステム(梨大EMS)」を平成18年度のガイダンス時に配布した。

2) 平成19年度版の冊子内容及び印刷部数を決め発注した。また、配布の手順を検討した。

##### (2) 環境法令セミナー

環境法令セミナーとして、安全衛生に関わる講演会を開催した。

###### 1) 「高圧ガスの定義と取扱いの注意」

日時：平成19年3月26日(月) 16:00~17:30

会場：総合研究棟1階 Y-12教室

講師：岩谷瓦斯株式会社 宇土 泰弘 氏

受講者数：20名

##### (3) 学生内部環境監査補助員の養成

内部監査委員会学生内部環境監査補助員の養成に資するため、内部監査委員会と共同で「内部監査委員養成講座」開講を開講した。

##### (4) 環境教育/環境研究/地域貢献の推進

環境教育/環境研究/地域貢献の推進における成果

・環境研究		計	30編
・環境教育	部門内	計	114件
	学内(部門外)	計	55件
	学外	計	15件

## ・環境負荷及びその低減に向けた取組の状況

### 平成18年度 環境改善活動報告

#### 2 環境教育科目の開講

「環境マネジメント概論」(集中講義, 1単位)

開講日: 8月10~11日の2日間

教室: 教育人間科学部 K124

講師: 五十石 清(学外講師)

受講生: 総計36名(教育人間科学部10名; 医学部2名; 工学部24名)

#### 3 環境教育科目の開講

共通科目において, 環境教育として【環】を付した, 以下の4科目が開講された。

前期: 「【環】地球環境化学とエネルギー」

; 「【環】生物の生存条件」

; 「【環】環境と人間」

; 「【環】自然災害と地理学」

#### 4 美化運動の推進

環境教育の一環として, 「学内一斉清掃」を以下の日程で実施。

・第1回 学内一斉清掃

平成18年8月1日

参加者数 総計879名(教員115名; 職員143名; 学生621名)

・第2回 学内一斉清掃

平19年1月19日

参加者数 総計846名(教員112名; 職員151名; 学生583名)

#### 緊急時対応WG

緊急事態への準備及び対応に関わる教育・訓練及びテストの実施について、各部門に対し周知徹底を図った。

## 環境負荷及びその低減に向けた取組の状況

### 平成18年度 環境改善活動報告

#### 広報・コミュニケーションWG

##### 1 ISO ホームページについて

サーバへの user:iso によるアクセス権限は許可された。

(1) コンテンツ収集とWEB化(なるべく自動化?)、ファイル名の整理は、残念ながら達成できなかった。内部向けに関して、環境マネジメントの部分は2006年度版に修正し、その他の部分的変更を行った。(いずれも手動)

次年度以降、外部向けのページ更新が望まれる。

(2) 学生EMS委員会ページへのテコ入れ

学生EMS委員会自体が休止/消滅状態の為、次年度以降に引継ぐこととした。

(3) メールアドレス iso14001@yamanashi.ac.jp の管理

苦情、要望に関して3件=2(近隣、学生)+1(附属)件あった。

いずれも、即対応した。なお、総合情報センターのSpamBlockにより、本アドレスへのspamメールはかなり減少した。

(4) アクセス数の把握(評価の為のlog管理)

analogというfree softを導入した。httpd/access\_logからISO関係を抜きだし、analogにかければ自動的にreport.htmlを生成し、統計諸量を把握できる。今後、Logの残留期限を少なくとも2年程度残すようサーバ管理者に依頼したい。

##### 2 環境情報処理手順書(依頼、要望、改善提案等の処理)

次年度引き続き検討することとした。

##### 3 関連文書の電子化と保管(他WGとの共同作業)

環境マネジメントマニュアルをはじめ、各種手順書及び規定を電子化し、ISOホームページに関連文書として掲載した。



## 環境負荷及びその低減に向けた取組の状況

### 平成18年度 環境改善活動報告

#### 医学部キャンパス

本年度、医学部キャンパスにおいては、教職員・学生が協同して環境活動を行うことができた。

##### 1 キャンパス全体としての成果

- ・ キャンパス6部門それぞれが、前年度の経験と反省を生かして、本年度の目標と環境改善推進重点項目を設定した。
- ・ 省エネルギー、特に電力、ガス、水道水、コピー用紙等の使用量の削減に努力した結果、本年度はガス使用量を除いて前年度実績を下回ることができた。ガス使用量の増加は空調設備の電力からガスへの切り替えが行われたためと考えられる。
- ・ 前年度4月から実験廃液が浄化槽から公共下水道への排出になったことを、本年度も引き続きキャンパス全体に周知するとともに、各種有害廃液の分別貯留を指導し、徹底した。
- ・ 薬品管理システムにおける新規登録薬品のデータベースの追加などを行い、その使用法を改めて周知徹底した。

##### 2 職員（教員・事務員）の活動成果

- ・ 月1回のキャンパス清掃活動を実施し、美化の強化が図られた。
- ・ 前年度よりさらに禁煙エリアを拡大し、喫煙区域を明確にして、分煙の徹底を図った。
- ・ 実験廃液の処理および感染性廃棄物に関する職員研修会を開催した。
- ・ 毒物及び劇物等の保管・管理状態の定期点検を実施した。
- ・ 前年度に引き続き、環境研究、特に化学物質の健康に対する影響について研究を進めた。
- ・ 環境教育として、医学科および看護学科でISOの講義を継続した。
- ・ 医学部キャンパスの内部環境監査を実施した。

##### 3 学生の活動成果

- ・ 平成18年度のオリエンテーション時に、医学科・看護学科2年次生、看護学科3年次編入生は医学部キャンパスでのISO活動の説明を受けた。
- ・ 一般廃棄物について、可燃ごみ、ビン、缶、ペットボトルの分別排出を実行した。
- ・ 前年度に引き続き、分煙の徹底（禁煙エリアの拡大と喫煙区域の明確化）に協力した。
- ・ 学生内部環境監査補助員の養成のための「内部環境監査員養成セミナー」に参加した。

## ・環境負荷及びその低減に向けた取組の状況

### 平成18年度 環境改善活動報告

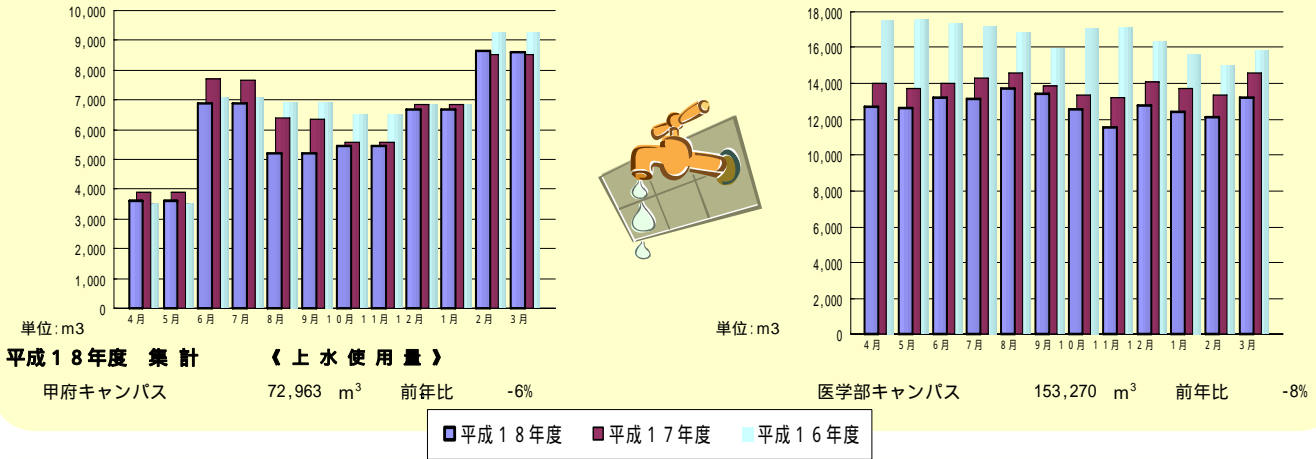
#### 内部監査委員会

1. 内部監査委員会を各学部からの委員1名ずつと、施設管理担当者1名とで組織し、委員会を3回開催した。
2. 10月14日(土)9:00~17:00、15日(日)9:00~15:30にわたり、本学非常勤講師・技術士で環境マネジメント主任審査員である五十石 清氏を講師として内部監査員養成セミナーを開催した。教職員19名および学生49名(教育人間科学部 10名、医学部 1名、工学部 38名)が受講し、内部監査員の資格を取得した。
3. 10月30日~11月17日に、内部監査を実施した。不適合44件(うち、重大7件、軽微37件)、注意43件、計87件の指摘事項があった。前年度と比較すると指摘件数は横ばいであったが、重大な不適合とされる指摘事項が減少し、本学の環境マネジメントシステムは引き続き概ね機能していることが確認できた。
4. 「内部監査所見・対応書(YE-4-A-4553)」および「内部監査報告書(YE-4-A-4554)」に使用されている文言の一部について、不適合事項を指摘事項に変更するなどの改訂を行った。

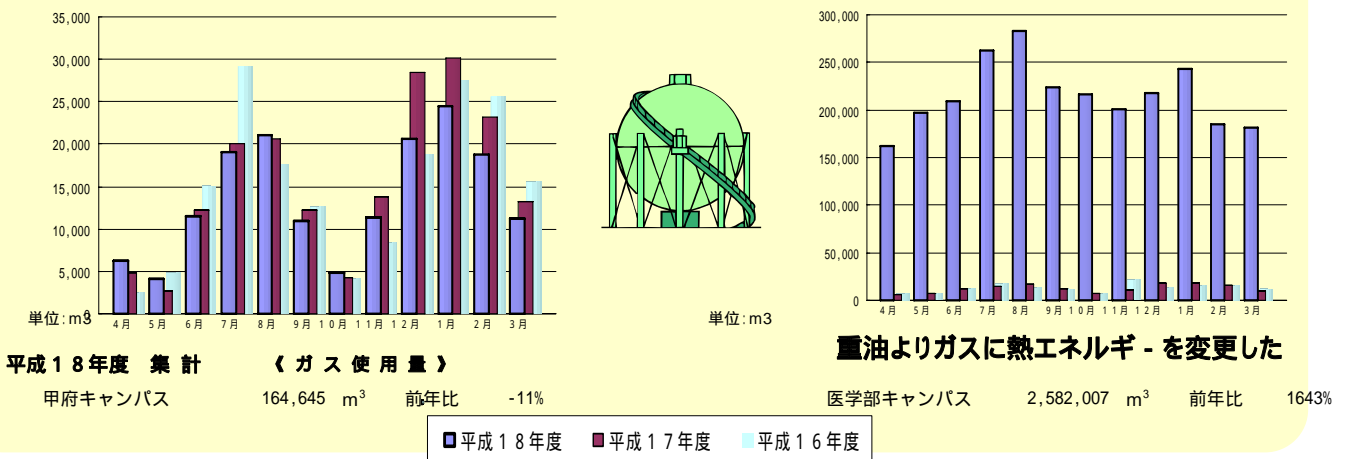
内部監査員養成セミナーの開催により新たな内部監査員が加わり、教職員の内部監査員は合計87名となった。しかし、監査対象部門数が39部門あり、一部門の監査には最低2名の監査員が必要であるため、短期間に監査を実施することは困難であった。また、準構成員である学生の監査員には、講義等の間隙をぬって監査へ参加出来るものは少なく、今後とも、教職員の内部監査員を養成することが望まれた。

環境負荷及びその低減に向けた取組の状況

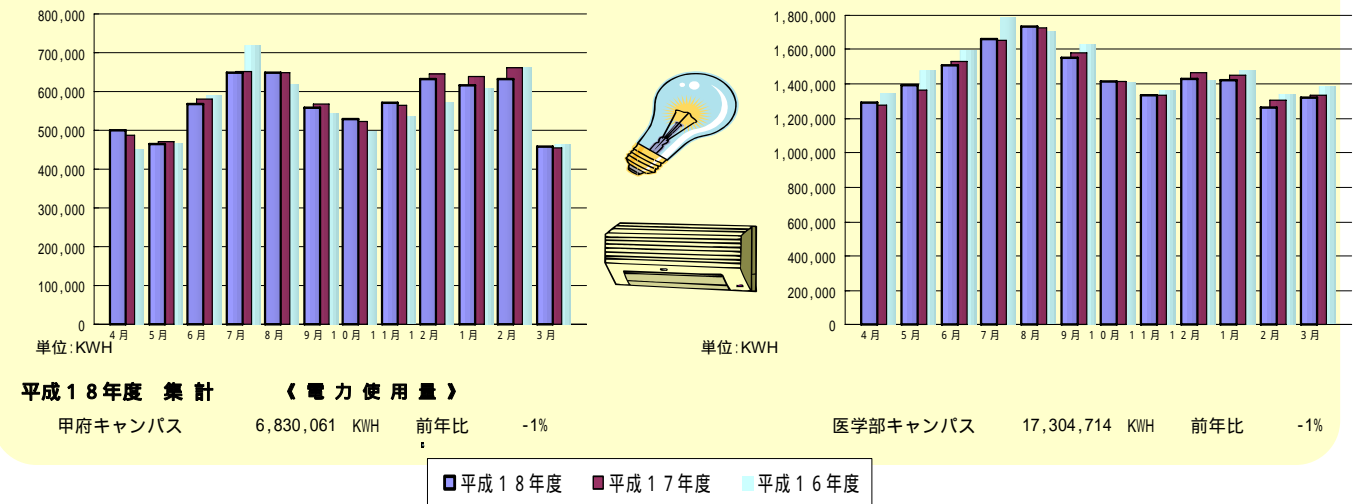
《 上水使用量 》



《 ガス使用量 》

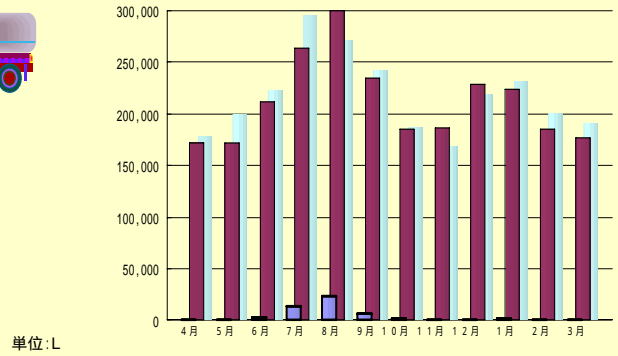
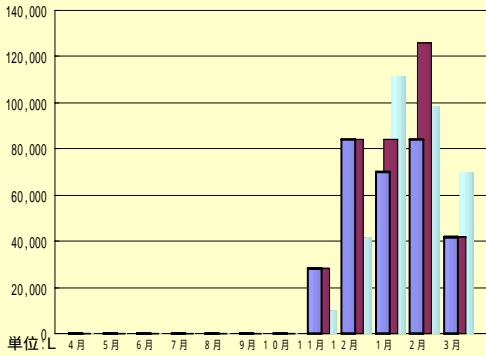


《 電力使用量 》



環境負荷及びその低減に向けた取組の状況

《 重油使用量 》

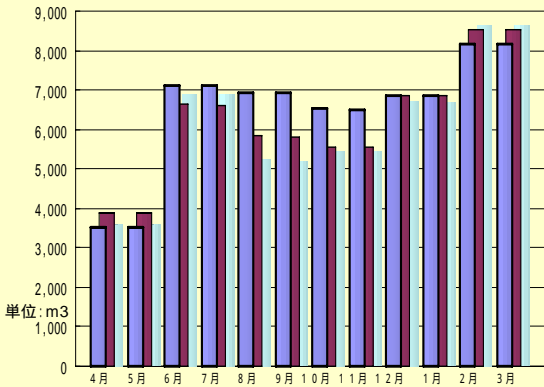


平成18年度 集計  
甲府キャンパス 308,000 m<sup>3</sup> 前年比 -15%

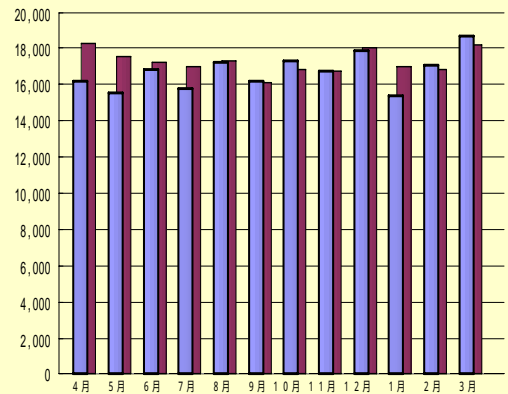
重油よりガスに熱エネルギー - を変更した  
医学部キャンパス 52,037 m<sup>3</sup> 前年比 -98%

■平成18年度 ■平成17年度 ■平成16年度

《 下水使用量 》



単位:m3



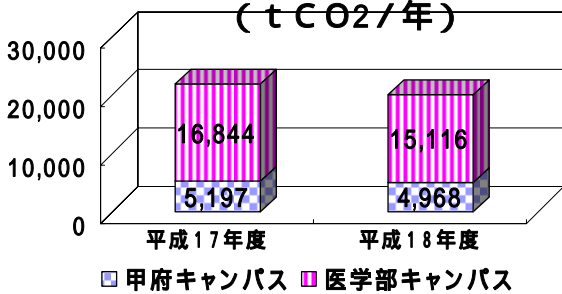
平成18年度 集計  
甲府キャンパス 72,963 m<sup>3</sup> 前年比 -2%

医学部キャンパス 200,976 m<sup>3</sup> 前年比 -3%

■平成18年度 ■平成17年度 ■平成16年度

環境負荷及びその低減に向けた取組の状況

CO2排出量



算出エネルギー - 種別

甲府キャンパス

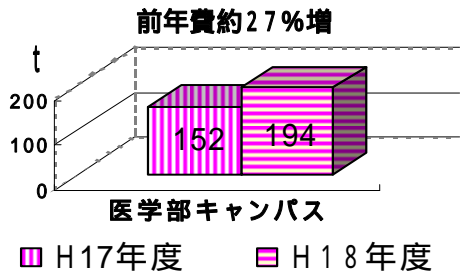
- 電気 1%減
- 都市ガス 11%減
- A重油源 15%減

医学部キャンパス

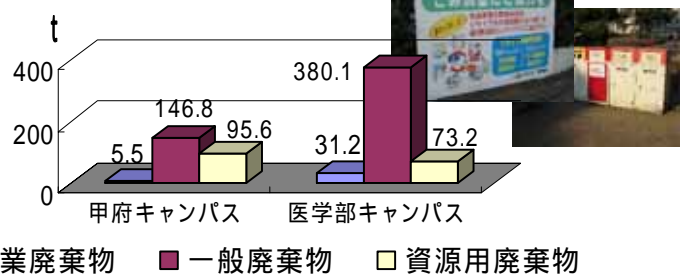
- 電気 1%減
- 都市ガス 1643%増
- A重油 98%減

廃棄物量

『医療廃棄物排出量』



『廃棄物排出量』



グリーン購入法

(国等による環境物品等の調達に関する法律)

環境負荷の低減における取り組み状況のなかエネルギー - の他、使用物品や役務の調達においても環境に配慮されている平成17年度本学使用物品や役務をあげています。

分野	品目	総調達量	特定物品等の調達量	特定物品等の調達率
紙類	コピー用紙、トイレットペーパー等	96,933 kg	96,933 kg	100%
文具類	ファイル、封筒等	460,463 個	460,463 個	100%
機器類	椅子、机等	1,308 台	1,308 台	100%
OA機器	コピー機、プリンタ等	2,383 台	2,383 台	100%
家電製品	冷蔵庫等	19 台	19 台	100%
エアコンディショナ - 等	購入	36 台	36 台	100%
照明	蛍光管	4,329 本	4,329 本	100%
制服・作業服	制服・作業服	214 着	214 着	100%
インテリア等	布団、毛布	1,215 枚	1,215 枚	100%
作業手袋	作業手袋	1,896 汲	1,896 汲	100%
役務	印刷等	210 件	210 件	100%



環境負荷及びその低減に向けた取組の状況

太陽光発電設備



4.5kw



附属中学・小学・養護・幼稚園の4ヶ所に設置

約13,140kwh/年

年間約7.3tの二酸化炭素(CO2)の削減を行っている

ハイブリッド照明  
(風力・太陽光)



自然エネルギーの有効利用とクリーンエネルギーである太陽光発電を児童・生徒の環境教育に取り組んでいる。

省エネルギーに対する啓発活動等

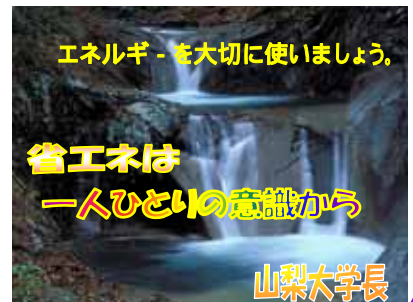


平成17年度 省エネポスタ -

平成18年度5月、甲府キャンパス、医学部キャンパスにおいて、省エネルギーに対する啓蒙と対策の全学的な説明会を行った。

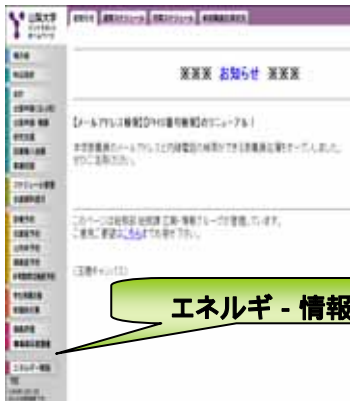
特に附属病院については、外来者に対して、夏場の省エネの協力依頼を行っている。

平成18年度 省エネポスタ -



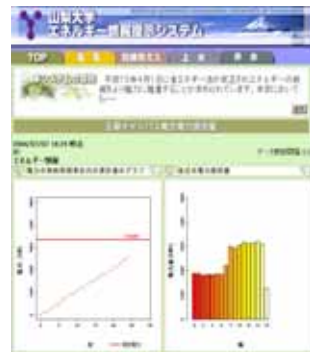
エネルギー - 情報

電力・ガス・水等使用状況リアルタイム表示



エネルギー - 情報

イントラTOPページ



## 環境負荷及びその低減に向けた取組の状況

### PCB廃棄物保管状況

PCB(ポリ塩化ビフェニル化合物)は毒性が強く人体に与える影響は大きく中毒症を起こす、また環境汚染も懸念されている。



ポリ塩化ビフェニル廃棄物の  
適正な処理の推進に関する特別措置法  
(平成13年7月15日施行)

施行日より15年(平成28年)  
以内に処分

本学がある山梨県は北海道で処分

PCB機器保有数量  
コンデンサ: 21個  
安定器 : 2464個  
油 : 40L  
変圧器 : 24台



特別管理産業廃棄物として厳重に管理

### 吹き付けアスベスト除去対策状況



アスベスト除去作業

アスベスト(石綿)建築資材として広く使用されましたが、飛散したアスベストの人体への影響が判明したため、1975年禁止された。

「吹き付けアスベスト」「吹き付けロックウール」「吹き付けひる石」等呼ばれ、含有量が0.1%(H18年9月改正)を超える資材が調査対象となり下記の建物及び面積の除去を行った。

### 平成18年度除去建物

緑が丘宿舎、成島宿舎C棟、A-1号館  
A-3号館、附属図書館、M号館、L号館  
B-2号館、附属小・中学校等、課外活動  
施設、クリーンエネルギー研究センター等

除去面積: 2,265.3m<sup>2</sup>



## 社会的取り組み状況

### 地域貢献

### 研究活動

No	項 目	新規 継続	山梨大学	山梨県
1	環境科学研究所との研究等における協力	継続	工学部応用化学科	環境科学研究所
2	次世代森林管理に向けた水・物質・生物総合系の調査・研究	継続	工学部土木環境工学科	森林総合研究所
3	合同セミナーの実施（山梨大学工学部循環システム工学科と県環境科学研究所）	新規	工学部循環システム工学	環境科学研究所
4	21世紀COEプログラム「アジアモンスーン域流域総合水管理研究教育」拠点形成事業（山梨大学）への山梨県環境科学研究所の協力	新規	工学部土木環境工学科	環境科学研究所
5	県産果物と健康に関する研究	継続	医学部臨床看護学講座	農政部果樹食品流通課
6	水生生物にやさしい河川環境づくりの推進	継続	工学部土木環境工学科	農政部花き農水産課
7	甲府市都市計画区域内における洪水発生機構の解明とその対策についての研究	新規	工学部土木環境工学科	土木部治水課
8	国の天然記念物「山中湖」ハリモミ純林の衰退防止と保護復元（H17国の天然記念物「山中湖ハリモミ純林」の枯死衰退原因の解明と保護復元）	継続	教育人間科学部理科教育講座	森林総合研究所
9	センサーマウスを用いた外気および室内空気環境パトロール（H17内分泌攪乱物質（環境ホルモン）のバイオモニタリングシステムの開発“環境”）	継続	医学工学総合研究部 生態環境医工学専攻	森林環境部森林環境総務課
10	地図情報を含む開放型地域情報集積公開システムの開発・運営（H17統合GISの活用）	継続	工学部循環システム工学	企画部企画課
11	バイオマス利用による大学の新たな知的財産の展開事業	新規	工学部長	農政部農業技術課
山梨県・甲府市以外				
1	安部川の清流環境回復のための実践的研究	新規	工学部土木環境工学科	国土交通省中部地方整備局 静岡河川事務所

## 社会的取り組み状況

- 地域公開授業

第1回	平成18年 9月7日(木)	持続社会形成専攻 教授 竹内 智	再生燃料バス、走る！ 資源循環型社会への第一歩
第2回	平成18年 9月14日(木)	持続社会形成専攻 助手 依田 英介	分子の動きが見えた！ 「グリーンケミストリー」 に基づく触媒研究
第3回	平成18年 9月21日(木)	持続社会形成専攻 助教授 金 基成	環境政治学からの挑戦 持続可能な都市の条件
第4回	平成18年 9月28日(木)	持続社会形成専攻 教授 豊木 博泰	情報システム技術からの挑戦 地域の情報交換・共有に 役立てる情報時術
第5回	平成18年 10月5日(木)	持続社会形成専攻 教授 鈴木 嘉彦	バイオマスタウンへの挑戦 持続可能なエネルギー資源・ バイオマス
第6回	平成18年 10月12日(木)	持続社会形成専攻 助手 岩田 智也	都市の野生生物を保全するための 新たな手法 地域情報を用いた生息環境評価
第7回	平成18年 10月19日(木)	持続社会形成専攻 教授 御園生 拓	私たちはサルだ！ 群れと住処と交通
第8回	平成18年 10月26日(木)	持続社会形成専攻 教授 北村 眞一	持続可能な都市とネットワーク基盤

## 社会的取り組み状況

### 新入生オリエンテーション

学内の新入生に向けて、施設の機能と環境についてプレゼンテーションを行った

施設(建物)の機能

耐震性

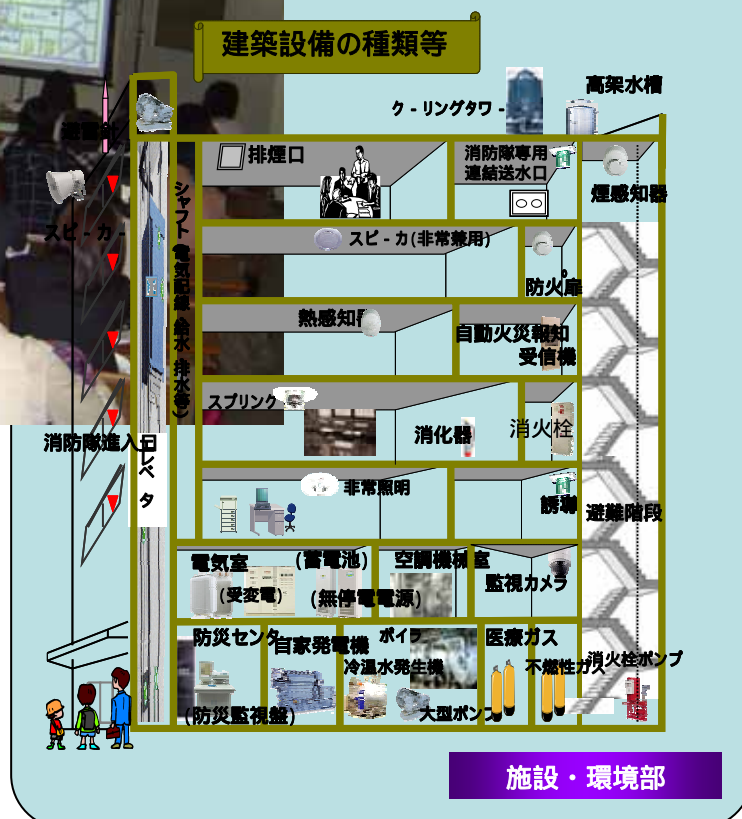
地球環境負荷の低減に向けた取組

省エネルギー

ゴミ等の排出



山梨大学 平成19年度新入生オリエンテーション資料





## 外部審査評価

(最新更新日: 2006年03月09日)

**環境マネジメントシステム登録情報**

【JSAE648】

**1. 登録の基本事項**

1) 登録者名、登録場所:  
 ヤマシタガク  
 山梨大学 甲府キャンパス及び医学部キャンパス (附属病院を除く)  
 甲府キャンパス  
 〒400-8510 山梨県甲府市武田四丁目4番37号  
 医学部キャンパス  
 〒409-3898 山梨県中央市下河東1110番地

2) 登録月日:  
 初回登録: 2003年04月07日  
 改定登録: 2006年02月17日  
 更新登録: 2006年04月07日  
 有効期限: 2009年04月06日


3) 適用規格: JIS Q 14001:2004, ISO 14001:2004

4) 登録範囲: JAB 登録 JAB-E11162  
 JAB 認定範囲番号 37

山梨大学甲府キャンパス及び医学部キャンパス (附属病院を除く) における教育・研究活動及びこれらの活動を支える管理運営活動において  
 ①職員・学生・地域住民に対する環境教育および啓発活動  
 ②環境問題に関する研究と教育  
 ③省資源・省エネルギー (紙、電気、水道水使用量の削減)  
 ④廃棄物の減量化、再利用およびリサイクル  
 を推進するための環境マネジメントシステム

5) 英文登録者名、登録場所:  
 UNIVERSITY OF YAMANASHI Kofu Campus and Medical Campus(except University Hospital) Kofu Campus  
 4-37, Takeda 4 chome, Kofu-shi, YAMANASHI, JAPAN  
 Medical Campus  
 1110, Shimokato, Chuo-shi, YAMANASHI, JAPAN

### ISO14001 マネジメントシステム登録証



登録番号  
J S A E 6 4 8

登録者名および所在地  
**山梨大学 甲府キャンパス  
及び医学部キャンパス (附属病院を除く)**  
山梨県甲府市武田四丁目4番37号  
医学部キャンパス  
山梨県中央市下河東1110番地

審査の結果、貴組織の環境マネジメントシステムが、  
JIS Q 14001:2004, ISO 14001:2004 に  
適合していることを確認しましたので、登録します。

登録条件  
ISO 14001 マネジメントシステム登録証付属書 JSAE 648-3 による。


登録日	更新日	有効期限
2003年4月7日	2006年4月7日	2009年4月6日

財団法人 日本規格協会  
理事 黒木勝

審査登録事業部理事  
黒木勝

登録事業部 東京都千代田区永田町二丁目13番5号 Tel: 03-3592-1413 Fax: 03-5532-1256

### ISO14001 マネジメントシステム登録証付属書



付属書番号  
J S A E 6 4 8 - 3

登録者名  
**山梨大学 甲府キャンパス  
及び医学部キャンパス (附属病院を除く)**

貴組織の登録条件は下記の通りです。

適用規格  
JIS Q 14001:2004, ISO 14001:2004

登録範囲  
山梨大学甲府キャンパス及び医学部キャンパス (附属病院を除く) における教育・研究活動及びこれらの活動を支える管理運営活動において  
 ①職員・学生・地域住民に対する環境教育および啓発活動  
 ②環境問題に関する研究と教育  
 ③省資源・省エネルギー (紙、電気、水道水使用量の削減)  
 ④廃棄物の減量化、再利用およびリサイクル  
 を推進するための環境マネジメントシステム

登録条件  
登録日 更新日  
2003年4月7日 2006年4月7日  
その他

環境マネジメントシステム登録証付属書管理遵守事項に従うこと。

財団法人 日本規格協会  
EMS判定委員会 委員長  
方山富

連絡先: 財団法人 日本規格協会 審査登録事業部 東京都千代田区永田町二丁目13番5号 Tel: 03-3592-1413 Fax: 03-5532-1256



## 国立大学法人山梨大学環境報告書

- 所在地(対象団地) :** (甲府キャンパス)  
山梨県甲府市武田4丁目4番37号  
(医学部キャンパス)  
山梨県中央市下河東1,110番地
- 対象期間 :** 2006年度(平成18年度)  
平成18年4月1日～平成19年3月31日
- 参考ガイドライン :** 環境省「環境報告書ガイドライン2003年度版」
- 作成部署 :** 国立大学法人山梨大学  
総務部 総務・広報課  
施設・環境部  
ISO事務局
- 問い合わせ先 :** 国立大学法人山梨大学  
総務部 総務・広報課  
住 所 山梨県甲府市武田4丁目4番37号  
TEL 055 - 220 - 8003  
FAX 055 - 220 - 8024  
e - mail takamura@yamanashi.ac.jp

平成19年7月

